

議会だより

平成26年度 祝 伊仙町合同金婚式祝賀会



平成26年度伊仙町合同金婚式祝賀会

目次

- 平成26年伊仙町議会臨時会・定例会採決・陳情審議一覧…………… P 2
- 一般質問通告一覧（平・牧・美山・福留・岡林・伊藤 6議員登壇）… P 3～P 8
- 世界自然遺産登録に向けた現地調査…………… P 9
- 農業委員（議会推薦）決定…………… P 10
- 農産物流通に関する意見交換会…………… P 11
- 議会の動き…………… P 12

平成26年9月議会についてのお問い合わせは、伊仙町議会事務局（86-3111 内線16）までお問い合わせください。

※過去の議会の内容に関しては、こちらのアドレスまで<http://www.town.isen.kagoshima.jp/>

平成26年 第2回伊仙町議会臨時会 全議案(会期5/30)

番 号	件 名	採決結果
承認第1号	伊仙町税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認	承認
承認第2号	伊仙町税条例の一部を改正する条例を改正する条例の専決処分の承認	承認
承認第3号	伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認	承認
承認第4号	平成25年度伊仙町一般会計補正予算(第8号)の専決処分の承認	承認
承認第5号	平成25年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)の専決処分の承認	承認
承認第6号	平成25年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第5号)の専決処分の承認	承認
承認第7号	平成25年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第4号)の専決処分の承認	承認
承認第8号	平成25年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第3号)の専決処分の承認	承認
承認第9号	平成25年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第5号)の専決処分の承認	承認
承認第10号	平成25年度伊仙町上水道事業会計補正予算(第2号)の専決処分の承認	承認
議案第24号	伊仙町報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	否決
議案第25号	伊仙町長等の給与等に関する条例の一部を改正する条例	否決
議案第26号	伊仙町教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例	否決
同意第1号	伊仙町副町長の選任について	同意

平成26年 第2回伊仙町議会定例会 全議案(会期6/17~20)

番 号	議 案 名	採決結果
報告第1号	平成25年度伊仙町一般会計繰越明許費繰越計算書	報告
同意第2号	伊仙町監査委員の選任について	同意
議案第27号	伊仙町特産品加工工場の設置及び管理に関する条例	原案可決
議案第28号	伊仙町報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第29号	伊仙町長等の給与等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第30号	伊仙町教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第31号	伊仙町過疎地域自立促進計画の一部変更	可決
議案第32号	伊仙町辺地総合計画の一部変更	可決
議案第33号	平成26年度伊仙町一般会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第34号	平成26年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第35号	平成26年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第1号)	原案可決

平成26年 第2回伊仙町議会定例会 提出陳情審議一覧

番 号	件 名	採決結果
陳情第5号	"少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るため、2015年度政府予算に係る陳情書採択要請"	採 択
発議第2号	"少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るため、2015年度政府予算に係る意見書"	採 択

平成26年 第3回伊仙町議会臨時会 全議案(会期7/15)

番 号	件 名	採決結果
議案第36号	平成26年度伊仙町一般会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第37号	平成26年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
	農業委員の推薦の件	

平成26年 第2回定例会

一般質問



平議員

計画をどの様に進めていくのか、またどの様なルートで整備を進めていくのか問う。

問 前回の第1回定例会での質問に対し、町

長よりほーらい館周辺のコンパクトシティー化に向けてインフラ整備、道路網の整備は絶対に必要であると答弁をいただきました。しかしながら、未だに具体的な話が進んでおりません。Aコープの出店で喜んでいる集落の皆様も、事故等が起きてしまえば安心して生活できなくなると、大変危機感を持たれている様であります。開業後車両等の交通量が増加している事も事実であり、また集落の主要通学路である事から、歩道整備は急を要すると考えております。今後、この

答 Aコープ周辺の道路整備については、大

変危険な状況になる可能性が出てきました。しかし具体的整備計画はまだ、出されていません。少しでも早く整備できるように努力したいと思いますが、財政の厳しい中ですので、少しでも財政負担の少ないルートを検討せざるを得ないと思います。

問 今回6月6日(金)に交通量調査を行っ

た際の資料を添付してあります。子ども達の帰宅時、午後4時頃の光景ですが、後方から車が来てとっさに子ども達が注意し合い避けている状況であります。ま

た別の写真では、子ども達が歩いている歩道の所まで目いっぱい車両が入って来ています。本当に車両が通ると、子ども達は危険にさらされてしまいます。また、お買い物弱者問題等もある中、お年寄りの方々も、せっかく自分の力で買

答 危険だと、どうしても外出しなくなってしまう傾向もあるのではないかと思います。財政が厳しい事は重々

に事故があつてからでは遅いと思います。毎回危険な目に遭うのは子ども達やお年寄りの方々です。この件に関しては、執行部だけでは無く、Aコープ側や集落住民の皆様ともしっかりと協議し、早急に対応して頂きたいと思いますが、町としてのこれからの考え方について問う。

答 来客数の聞き取り調査をしたところ、平

日平均800人、休日は900人を超えるという話

を聞く事ができました。この事からも非常に多くの車両が往来している事が解りました。この結果を踏まえ、今回急応処置的に教育委員会、小中学校、Aコープ及び地域住民の皆様と協議して、通学路の変更等を検討し、今後、整備計画をもとに早急に対策をとっていきたいと思います。

問 世界自然遺産登録に認定されると、国内

外、アジア諸国や各国から多くの観光客の来島が予想されます。それに備えたインフラ整備や国際線を利用した各国からの離発着が可能な那覇空港からの直行便、現在就航している第一航空より大きな便の就航も、今後、県や3町で協議していく事が必要だと考えます。また、沖縄県とは闘牛等の文化交流もあり、観光客を対象とした闘牛観戦ツアー等の企画を模索しつつ、世界自然遺産とあわせ

て国内外に発信していく

ヤンスではないかと考えております。それらを踏まえて、町としても近年のグロ―バリゼーションに遅れをとる事のない様、公民館講座等での外国語講座、英語や中国語等これらを行う事ができないかと考えます。また、現在、奄美・琉球世界自然遺産登録を目指す徳之島協議会という団体があり、フェイスブック等のタイムラインで、島の近況をアップしたりしている様であります。我が町でも、この様な取り組みを今後活用し、官民一体、頑張っていく必要があるのではないかと思います。今後町としてどの様に考え、世界自然遺産登録に向けて対応していくのか問う。

答 世界自然遺産に登録

される様と、今までの例にもある様に観光客が増大する傾向があります。それに対処する施策が必要です。今年度は奄振交付金事業で航空運賃の低減が図られ、航空機利用頻度

も著しく向上するものと思われま。沖繩からの航空機就航等も、交通アクセスの充実もそのひとつであります。闘牛観戦ツアーの計画等を、多岐にわたる観光客誘致につながるイベント等を観光協会、商工会等、関係団体と協議を重ね、官民一体となって発信していくと考えております。また観光客が増えるという事は、外国人に接する機会も多くなり、外国語で対応できる人材の育成は必須であります。そこで、教育委員



牧議員

問

大久保町政4期目に掲げたマニフェストで「実現力」として「自立・挑戦・交流」を3本柱に、輝く未来へ更なる前進を目標に町政発展のため、日夜奮闘されていること

会や中央公民館、ALT等と協議し、早い時期に外国語教室の開設に向けて取り組んでいきたいと考えております。



下校時、車に注意し合う様子

と思いますが、2年連続のバレイシヨの価格暴落に加え、4月からの消費税アップやガソリン価格の高騰で家計を維持するために町民は大変な状況に陥っています。こういう時期こそ、町民の目線に立って思い切った施策の展開が必要と思うが町長の意見を問う。

答

町政運営に関しましては、マニフェストで100項目の約束をしています。その中で人口を増やし、そして農業生産額を50億にしていくと実現に向って全力で取り組んでまいります。職員に常々話しているのは「株式会社伊仙町」チーム伊仙町ということで全職員が伊仙町のために何ができるか、そして更に範囲を広げて行けば全町民がチーム伊仙町ということまで仕上げていくことが出来れば伊仙町民の持つ潜在的な力を発揮していく、そのためには、農業生産額50億と人口も増やしていくという大きな目標を立てて行かなければなりません。次の10年後、20年後、50年後のこの町のあり方を過去の歴史を振り返りながら考えていくことが出来ると思っています。

問

企業誘致について、5月のAコープ伊仙店のオープンに続き、24時

問 営業のコンビニエンスストアの建設の着手や株式会社日本マルコ誘致で若者を含めて、働く場の確保が整いつつあります。しかしながら近隣町村と比べてホテルなどの宿泊施設が皆無であり、世界自然遺産登録が近いうち実現した場合、多くの来島者が増えることが予想されます。そこで、景観上も悪い犬田布岬の博物館跡の建物や老朽化した公営住宅などを解体撤去し、ホテルなどの宿泊施設を誘致する考えはないか問う。

答

世界自然遺産登録で外国人観光客を含め、入り込み客の増加が予想されていることもあり、観光客を滞在させるにはどういった施策が必要なのか、これまでも町として推進してきた民泊を進めながら、ホテル等宿泊施設の誘致、これにも全力で取り組んでいかなければならないと思います。また、犬田布岬の博物館跡や公営住宅を

問

株式会社日本マルコの誘致について、現在企業側との交渉状況(今後の計画を含めて)はどのようになっているのか問う。

答

株式会社日本マルコ事業者としては、平成28年4月操業を視野に入れ、今年4月から伊仙工場操業に合わせた採用計画、研修計画を実施しており、必ず伊仙工場は開設するということでもあります。そこで町としても誘致企業の意に沿えるよう、今年度中に土地購入、造成、建物設

計並びに貸し工場としての管理条例を進めていく予定であります。更に平成27年度の奄振交付金事業で工事に着手し、平成28年4月には、開設できるような事業を進めてまいります。

問 徳之島子宝空港の利
用促進について、徳

之島子宝空港は唯一、奄美空港と同じくジェット機が就航可能な空港であります。平成22年に、JALのジェット2便体制からJACのプロペラ機4便体制へと変わり、便数が多くなった分、利便性は向上したものの、搭乗者から「耳が痛い」などと苦情が多くあると聞きます。最近、鹿児島から大阪間が徳之島と同じプロペラ機から76席の小型ジェット機に変わっています。現状の4便体制のうち、せめて午前、午後の2便でも小型ジェット機を運航するよう要望できないか
問う。

答

現状の4便体制になり、徳之島から鹿児島間の利便性は飛躍的に向上しました。また併せて快適性という追求もまた必要であります。ジェット機の就航が可能になればこの快適性というのも向上すると思われまます。日本エアコミューターにも小型ジェット機の運航をお願いしたところであり、徳之島空港利用促進協議会、徳之島3町で協議し、沖縄直行便、鹿児島便のジェット化、これが運航できるよう要請活動を推進してまいります。

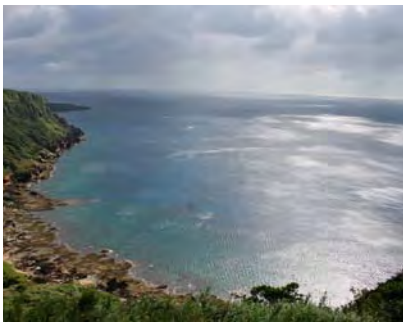
問

観光の振興について、世界自然遺産登録を目指し、官民一体となって推進している中で、7月から、航路、航空路運賃が軽減され、成田から奄美間には格安航空のパニラエアーが就航、更には11月から奄美ナンバーが導入されるなど、国からも奄美群島の存在価値が認識され、交流人口の拡大など追い風が

吹いています。近々、国立公園が国立公園へと格上げされます。西海岸の断崖絶壁下にある小原海岸はかつて全島から泊まり込みで湯治客が訪れる有名な場所でありました。この秘境地、手つかずの自然が残っている小原海岸に階段を新設するなど国立公園指定を前に国へ要望する考えはないのか問う。

答

国立公園や国立公園は、保護・規制するだけでなく、その利用も推進していく制度ということであり、集落や町などの要望が強い場合には、下に降りる道を降りやすくする手伝いを国の補助で出来るということですので。



小原海岸



美山議員

問

買い物弱者、交通弱者等について、全国的に増加し、その問題を解決するために、行政機関を始め、関係機関を代行錯誤している状況であります。本町にはありません。このことから、町内消費の促進、もしくは見守りをかねて、町が商工会へ配達業務を受託して頂くよう協議される意思はないか問う。

答

今年度からプレミアム付商品券発行事業補助金の増額をし、商工会において、消費者の町内消費を促すような商品券の販売を検討するなど、積極的に取り組んでいます。大型店舗の出店に、地元商店には厳しい環境となったとは思いますが、地元根付いた各店舗が、独自性のあるサービスを展開することに

なれば、地域住民との結びつきが深まり、地元商店としての高齢者や買い物弱者の購買継続につながるものと考えられます。本町においても、配達サービス等は地元根付いた商店のうち、数点で既に実施されていると聞きます。また、商工会とも、この配達業務を一元的にできるのか協議する必要はあると思えます。

問

土地改良事業の推進について、事業計画を行ったうえで、一部の工区においては中止となっている箇所もあるが、計画を作成する時点ですっかりと調査を行っているのか。また、工区ごとの説明会、換地委員会の開催、各種調査委員会の記録、町職員と地権者の協議などはなされているのか問う。

答

過疎地域自立促進計画の中止について、国の財源名の変更に伴い、このようになっております。あと、工区ごとの説明

問 世界自然遺産登録に向けての諸課題や取



福留議員

では、現在土地改良をする2年前から、新規計画地区の説明会を行っておりません。その中で、地区の代表者を選定し、範囲などを検討している状況です。換地委員会の開催については、事業申請をして採択後、その地区の換地委員会を設けて、換地委員に詳細な説明と全体計画などの概要を説明しながら、同意取得の手續きをしている所です。各種調査事業については、最近是世界自然遺産の関連で環境調査が厳しくなっており、県の方で事前にその地区の動植物の調査等をして、その記録を取り、調査結果に基づいて関係各課や町内の有識者の方々に説明

答 エコツアーガイド養成については、広域事務組合の事業で自然や観光資源の保護や知識の理解を深めてもらうために、年5回の養成講座が予定され



第二面縄1期地区土地改良現場

をして推進しています。町職員と地権者の協議についてですが、現在未同意者につきましては、職員が廻つて、それでも対応できない場合は、その地区の親戚の方や、議員からお願いをして頂いて、同意を頂けるように進めているところで

ています。国立公園に指定された時に整備していく箇所については、環境省徳之島事務所と連携しながら、現地の状況を確認し、地域住民の意向を汲み取り、専門家と相談して、景観を損なわない整備を行って参りたいと考えています。観光客の誘致や、滞在させるための具体的な方策としては、三町が一体となって取り組まなければならぬ課題であり、クレジットカード決済や外国語標記の案内、あるいは製品説明、商品説明、島内バスツアー、そういった様々な受け入れ体制を整える必要があります。そして、おもてなしの心をいかに発揮するか、これらを官民一体となって取り組むことが重要であろうかと思えます。ホテル等の宿泊施設の整備、あるいは誘致に関しては、伊仙町が飛躍的に発展するために、町としても本腰を入れて取り組まなければならぬ課題だと考えています。

問 長寿・子宝の町について、国のモデル事

問 長命草・コーヒー等の今後の状況と見通しについて問う。
答 コーヒーの出荷状況については、新規作物として導入したコーヒー生産組合は、現在会員が20名、そして面積が約1haで現在育苗中でありませす。また、一部会員が、来年度から出荷を予定されています。見通しについては、公民館で総会を致しましたが、そのなかで、皆様から気長にあきらめずに頑張るということでありました。長命草については、会員が30名で、平成25年度の実績としては、金額にして約200万円の売り上げでございました。見通しについては、現在東京の方で長寿食材研究所の1業者で現在、取り扱っていますが、そちらで一生涯販売を推進している状況であります。

答 鹿児島県が10年間に業に採択されたと仮定した場合、どのような伊仙町の将来図を描いているのか。
答 わたつてあまみ長寿・子宝プロジェクトの集大成としての今後の奄美のあり方と、そして長寿・子宝宣言をいたしました。その際に、森内閣府特命担当大臣も宣言をなされましたが、大臣自らが徳之島、伊仙町をこれからの急速な少子高齢化のなかで、国家的な課題を解決するモデル地区にしていきたいというお話がございました。それは、伊仙町が合計特殊出生率2.81と圧倒的に高いです。5年前はあまり注目されていませんでしたが、それから伸びているということで、千葉県市議会からも視察の予定もありません。大きな要因として、日本で失われつつあるが、徳之島にはいまだにしっかりと根付いているもの、それは「結」の社会であったり、「親子3代に渡る子育て



吉玉農園のコーヒー栽培

て」が自然に行われていた
り、「地域の和」が保たれ
ているからであります。
こういったものを含んだ、
いわゆる総合的な「地域
力」が残っているからであ
ります。
日本が豊になっていく、象
徴的な自治体にしていきたく
いと思っております。我々も
答えを出し、さすが出生率
が高い子宝の島だと思わせ
るような、環境づくりもし
ていかなければならないと
思っております。



岡林議員

問

特別職の報酬増額に
ついて、町民は、税

金は上がるが所得は上がる
気配すらない中、厳しい
生活をしている訳でありま
すが、このたび、副町長
46万5千円から50万7千
円、教育長43万9千円から
48万1千円に増額するそう
だが町民感情からすれば現
状の額でも十分過ぎる額で
はないかと思えます。厳し
い町財政のなかでなぜ、
今、報酬を増額するのかそ
の根拠を示せ。

答

副町長の場合、県内
の平均が58万7千円
であり、増額しても平均の
86.4%であり教育長も87
%という状況で郡内一低い
という事を勘案し特別職報
酬審議会に諮った答申を基
にしての給与改定という事
です。

問

報酬審議会というが
民間人が9名で町か
ら3名が出席しているが、

町の財政に精通している人
間が町当局の3名しかない
中で、その思惑通りの答
申になるのは当然ではない
か。逆に今こそ町のトップ
に立つ方々が郡内一低い報
酬でも町の為に頑張る姿を
町民に見せるべきと思うが
いかがか。また（他の事業
等と比較すると）増額は小
さな額かもしれないが、こ
ういう予算を地道に基金に
回したり、直接町民の負担
軽減になる施策に遣った方
がいいと思うがどうか。

答

審議会では委員の
方々で活発に議論し
て頂き、当局が先導したと
かいう事はありませんし、
ご指摘のとおり、小さい金
額から財政を見直さねばい
けないと思えますが、いま
で低い報酬でやってきたの
を勘案し議会にお願いして
いる訳であります。

問

特産品加工工房につ
いて、西伊仙に工場
（工房）が完成しているが

町民には何の工房なのか今
一つ理解されていない様に
思われる。事業（工房建
設）のきっかけは何か。

答

当初は民間で事業を
進めたいという事で
したが話し合いの中で補助
事業に乗せたいという事
になり、国交省と交渉した結
果、奄振事業の非公共枠で
採択されました。

問

誰が運営するのか。

答

議会の承認を得て、
指定管理者の会社が
運営します。

問

最初の民間の方々
指定管理者の候補と
いうことか。

答

議会の承認が得られ
ればそういう事
です。

問

工房では何を作るの
か。

答

今ある工房では純黒
糖を作りますが、こ
れを使ったスウィーツや和
菓子、キビシロップ、黒糖
ジュースを製造する予定も
あります。

問

町や一般町民、農家
に対しての、メリッ
トは。

答

2名から10名程度の
雇用を予定してお
り、その所得税、法人税、
今後建物を建設する場合は
その固定資産税が課税され
ます。

問

一般の農家もキビを
出荷できるのか。

答

この工房に関して
はキビの品質が異なる
為出来ません。

問

事業費の総額はいく
らか。

答

総額2億5千万円。
うち、国庫補助額
9千3百万円です。

問 新たに工房や観光施設建設周辺道路の整備等はするのか。

答 指定管理者が自分で工房建設や交流人口増加のためのログハウス等を建設する可能性はあると思います。工場外の道路に関してははスムーズに搬入、搬出できる体制は町がとつていく必要がありま



特産品加工工房



伊藤議員

問 水道行政について、河地浄水場も完成し、杉原川原水の方も、貯水しているようですが、これが完成したことによる水量と水質がどれくらい改善

されるのか。

答 杉原川原水から平均毎時8トン。一日にして約200トンの水量で、小島、河地、上晴、西犬田布の集落への供給が可能となりました。また、水質の改善ですが、今までは糸木名の防水タンクの硬度の高い高速の地下水等をポンプアップし、供給をしていきましたが、河地浄水場復旧に伴いヤクタ川水源原水と地下水の比率が改善され、硬度の低い水を供給できるものと思われま

問 町内の各集落にあって、使用不可能な物件、特に築50年前後で取り壊しが必要な物件が多く見受けられます。また早急に住宅建設が必要な集落もあるが今後の住宅建設についての計画はどのようになっているのか。

答 今後住宅建設につきましては、今年馬根団地の計画を予定してい

ます。27年度は喜念団地の設計を行い、28年度に建設着工を予定しております。また、長寿命化計画は5年ごとに見直しをすることになっておりますので、今後、見直し、それに基づいて公営住宅の整備を行っていく計画になっていきます。

問 道路整備について、社会資本整備事業総合交付金事業の第二西下線、伊仙馬根線の工事も計画通り順調に進んでいるようですが、伊仙、空港線の

答 町道整備の要望は、町内各地から出されていますが、指摘されています。伊仙、空港線、上晴、崎原入口から崎原線は、前回の常任委員会の現地視察でもおわかりの状況にあります。第二西下線、また伊仙馬根線の事業

が終了後、交通量などを調査した結果、順次整備していく計画にしています。

問 農業振興計画策定に関する新規事業の立案等について、2年連続の台風災害とバレイシヨ価格の暴落など悪条件が重なり、大変な思いをされています。また、町行政としても農業生産額の大きな役割を占める基幹作物がダメージを受けることになり、抜本的な打開策を見出す必要があると考えます。そこで

答 農業振興計画「策定の段階で、新規作物の推奨や新規事業の計画立案をされる考えはないのか。

答 農業振興計画立案に関する新規事業の立案等については、新規品目については、徳之島営農推進協議会において、徳之島地域畑地かんがい営農ビジョンというものを作成しております。それに掲げ

ている戦略品目を中心に、現在検討しております。

問 企業誘致に伴う日本マルコ株式会社工場建設予定地について、糸木名地区が最有力であると同社が検討されているとのことですが、今後の事業進捗にあたってどのような計画をされているのか。

答 町としてもこの企業誘致の意に沿えるように、土地購入造成、設計委託並びに貸工場としての管理条例等の整備を早急に済ませ、平成27年度の奄美振興交付金事業で工事に着手する段取りで計画を進めています。



河地浄水場

世界自然遺産登録に

向けた現地調査

去る6月25日(水)に、NPO法人「虹の会」のご協力のもと、世界自然遺産登録に関する、国立公園指定に向けた取り組みの一環として、大久保町長と議会議員において現地調査を実施いたしました。なかでも、伊仙町総合グラウンド周辺の義名山の森においては、大変貴重な動植物が生息しており、絶滅危惧種に指定されるなど、なかなかお目にかかれないものもありました。

目につきやすい場所にある貴重な樹として、義名山公園のベンチ近くに生えている「アマミアラカシ」が象徴的でした。普段は何も感じずただ見過ごしておりましたが、なんとこの樹が自生している北限がこの徳之島であるとのことでした。

この樹の特徴は、低地・山地の適潤で肥沃な立地を好む常緑高木で、高さは15m以上に達するものもあるということです。この様な世界的にも大変貴重な動植物が徳之島のみならず、伊仙町に多数生息しているということよ。は議会としても大変驚くばかりでありました。しかしながら、虹の会の美延睦美さんにお話しを伺うと、この素晴らしい自然の財産を伝えるアドバイザーの確保が難しい状況であり、なかなか島外へ伝えきれないのが現状であるということよ。町民の皆様も是非、世界自然遺産登録に向けた取り組みとして、私たちの町にある自然の財産を観て島外に発信してみたいかがでしょうか。改めて町の素晴らしさを実感できるかと思えますよ。



雨の中でも熱心に聞き入る参加者。



公園内にあるアマミアラカシ。



遊歩道内を歩くと、台風の影響で倒れた樹が道を塞いでいました。



珍しい樹を観ながら、興奮する平議員。

－ 農業委員（議会推薦）決定 －

伊仙町農業委員会の委員の任期が、平成26年7月19日を以て満了することを受けて、「農業委員会等に関する法律第12条2項」の規定に基づき、下記の方々を議会推薦（第3回臨時会・平成26年7月15日開会）として決定致しました。

今回の農業委員の議会推薦のポイントとしては、政府の「男女共同参画基本計画（第3次）」において「2020年までに、指導的地位にある女性の占める割合が少なくとも30%程度になるように」との方向性を示していることや、「地域農業マスタープラン（人・農地プラン）」の策定においても、女性の参加が要件化されるなど、今後、女性の更なる活躍が大きく期待されていることを踏まえて、推薦致しました。また、行動力のある若い青年農業者も加わり、改めて、農業生産額50億円達成に向けて寄与されることを期待いたします。

記



伊仙町犬田布
ことぶき はじめ
壽 肇



伊仙町阿権
しげはら あけみ
重原 明美



伊仙町伊仙
もり みえこ
森 三江子



伊仙町崎原
もとやま みなこ
基山 美奈子

以上4名



農産物流通に関する意見交換会

平成26年7月11日（金）午後2時30分から、伊仙町役場議会委員会室において、委員会活動の一環として「農産物流通の意見交換会」を実施いたしました。今回の意見交換会においては、伊藤一弘議員よりご紹介頂きました、千葉県柏市で農産物を中心とした食品関係の流通を営んでいる株式会社 大樹の社長 新田裕次郎様と、熊本県でカット野菜等を主に販売されている株式会社 光正 社主 坂口正剛様のお二人をお迎えして開催いたしました。

なかでも、坂口様の会社は大手コンビニエンスストアのセブンイレブンにカット野菜を納品されているという実績をお持ちで、農産物流通に関しては的確なアドバイスと情報提供を頂きました。その内容について以下のとおり要約して町民の皆様へご報告申し上げます。



様々な事例を挙げて、質問をいたしました。



正面左 新田社長・右 坂口社主

・島のパパイヤの力について

島のパパイヤ（在来種）については、徳之島では昔大変重宝されていましたが、現在ではあまり食されることはなく、島の至る所で自生しています。

そのパパイヤについて、先般大手ダイエーグループにより新品種を植えて売り出すというお話がありましたが、島の在来のパパイヤにおいては、昔から病害虫にも強く、海沿いに自生しているパパイヤの樹においても、災害や台風などに見舞われても、枯れたりすることはなく、潜在能力が優れているということでした。新田様におかれましては、この在来のパパイヤの力を、最大限引き出すためにあらゆる計画を練っているということで、島民の皆様におかれましては、この昔からある在来のパパイヤの活用方法について研究して頂きたいとの事でした。

・糖蜜の力について

さとうきびから取れる糖蜜。この糖蜜は本土において大変貴重なものであるということです。その理由としては、糖蜜に乳酸菌を混ぜて少し熟成させると、液肥として活用ができ、マンゴーやパパイヤの葉っぱなどにかけて、糖度が上がるということから、企業においては、糖蜜を使ったあらゆる試験が行われているという事でした。

・アスパラガスの価値について

島では、あまり生産されていませんが、本土においてはアスパラガスの需要が多く、5月の北海道においては、5本1束（25cm程にカット）で300円~500円で販売されているということです。現在、国内で販売されているアスパラガスは、ほとんどがメキシコ産で、特にピザ屋や弁当のおかずとして重宝されているアスパラガスの需要は絶大であります。また、アスパラガス生産の魅力として、1度植えると、12年程は植え替える必要もなく、手間が掛からないというメリットもあります。これから高齢化の時代となっていくなかで、手軽に生産できるひとつの農産物として、町が推進しても良いのではというお話を頂きました。

・じゃがいもの活用方法について

じゃがいもの場合は、炭そ病があるので、いろいろと気を遣われるという事ですが、ある程度食品として提供できるものは、加工（コロッケ等）して流通する方が望ましいとの事。また、種芋を自家用として保存するときに芽が出るというお話がありますが、これに関しては、冷蔵庫の温度を1℃に設定して、安いりんごと一緒に入れておけば、芽は出ないという事でした。但し、冷蔵庫に一度入れたら暗闇にしているので、絶対に開けないことが条件だという事でした。

以上が主な意見交換会の内容であります。私たち議会においても大変貴重なご意見や情報提供を頂くなど、実り多い意見交換会となったことを大変喜んでいる所ではありますが、町民の皆様においても細やかではありますが、参考にして頂けたら幸いです。これから暑い日が続きますが、農作業をする際は熱中症対策など、ご自愛頂きますようお願い申し上げます、ご報告とさせていただきます。



9月に行われる第3回伊仙町議会定例会は、9月10日（水）から予定しております。

議会傍聴・インターネットによる議会中継のご視聴をよろしく申し上げます。

※日程については、確定ではありませんので、予めご了承願います。



議 会 の う ご き

6月	5月	4月	3月
17日	29日	27日	24日
16日	28日	26日	23日
13日	22日	22日	22日
11日	21日	21日	21日
10日	20日	20日	20日
9日	19日	19日	19日
3日	18日	18日	18日
1日	17日	17日	17日
	16日	16日	16日
	15日	15日	15日
	14日	14日	14日
	12日	12日	12日
	9日	9日	9日
	7日	7日	7日

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

編集後記

伊喜 功新副町長を迎えて、伊仙町行政も一段と明るく活気を増し、大いに町政発展に寄与されることを期待致します。

6月議会が6月17日から20日までの4日間、一般会計補正予算並びに徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算など11議案が上程され、伊仙町の将来を考えて予算の審議や一般質問においても活発に発言され、今後の伊仙町議会は大いに盛り上がりつつあることを期待すると同時に、町民の意見を取り入れて、町民の為の政治を行っていくことが大切と考えます。

議会に対するご意見や要望をお寄せ頂き、活発な議会活動が出来ますように、ご協力をお願い申し上げます。

美山 保

議会広報編集委員会

- 委員長 牧 徳久
- 副委員長 福留 達也
- 委員 美山 保
- 委員 平 博人
- 委員 永岡 良一